⑨　婦人防災隊が中心に訓練等に取り組む

藤間上自治防災隊（川越市）

▲婦人消防隊による消防ポンプ操法の様子

団体概要

設立年度：　平成　８　年度
人　　口：　２，５３６　人
世 帯 数：　　８４５世帯
（ともに平成２３年　６月　現在）

地域の状況

地理的状況：埼玉県の中央部よりやや南部、武蔵野台地の東北端に位置する川越市。
藤間上は、その川越市の南東に位置し、川越街道（国道２５４号）旧道沿いの地域。
地理的概況：昔からの集落と新興住宅が融合している。
過去の災害：川越市では、平成１０年、１１年に多数の床上・床下浸水等の被害が多数あったが、当地域においては、被害はなかった。

○組織結成の経緯

（結成までの経緯）

●災害は、どんな時、どんな状況で、どんな規模で発生するか予知できない。行政側としては、対応が遅れたり、手がまわらないケースも考えられる。

災害が発生した場合、初期段階での救助活動が人命を助けることになるが、その助け手となるのは、隣り近所や自治会となる。

そこで、防災会が組織され、日頃から訓練がされていたら、より効果的な対応が図られると考え、自分たちの地域は自分たちで守ろうという意識のもと、自主防災組織の結成に取り組み始めた。

（結成の際に苦労、工夫したこと）

●自警団の団員確保が困難となったため、自警団を解散した。それに代わるものとして、普段家庭にいることが多い女性を対象とした婦人消防隊を結成し、消火班を強化し、結成に向けての広報活動を行うことで、結成を後押しした。

○特徴的な取組み内容

（自主防災組織活動の詳細な内容）

●婦人消防隊が中心となり、役員、ソフトボールチームが消火ポンプや消火栓の点検、放水訓練を行っている。

通常の防災訓練はもとより、過去に起こった国内の大災害の特徴や被害状況を積極的に学び地域住民への周知を図った。

具体的には、関東大震災の教訓や阪神淡路大震災の教訓を活かし、家具の取り付けの徹底や住宅用火災警報器を設置する等、二次被害の防止に重点を置いた。

また、防災講話や住民同士の意見交換を行い、防災意識の高揚に努めた。

▲ 炊き出し訓練の様子

▲ 消火訓練の様子

○組織の形態

会長（１名）　－　副会長（２名）　－　役員（１４名）

・・・（実働部隊の一部として、ソフトボールチーム・婦人防災隊）

○活動の成果や問題点など

【よかった点など】

●年に１度開催する防災訓練への住民参加率が高い。

●各個人の防災意識が高くなった。

●色々な年齢の方や今まで交流のなかった方が、防災訓練へ参加することにより地域コミュニティの活性化が図られた。

●婦人消防隊を組織し、防災訓練等を通し地域住民の連帯感を持ってもらえるようになった。

【苦労した点など】

●防災意識をつなげておくことの難しさ

●各家庭の事情等により多くの地域住民で話し合う機会や時間を割くのが困難であった。

●各個人や世代に応じて防災に関する意識や考え方の差異が見受けられた。

○活動の課題や今後の取り組みの予定

【課題となっていること】

●高齢者が多くなってきているため、対象者の避難誘導をどうするのか。また、支援者も高齢化している。

●高齢社会に伴い要援護者への取り組みや個人情報を保護することへの配慮と一人でも多くの住民を参加させるための取り組み。

【課題解決のための取り組み計画】

●担当役員、班長等の協力や行政からの情報提供を得ながら図式化し、図上訓練を行いながら防災訓練で確認を取る。